

## 環境・農水常任委員会 県内行政調査

1 調査日 平成22年7月28日(水)

### 2 調査の概要

#### (1) クリーンセンター滋賀(甲賀市甲賀町神)

クリーンセンター滋賀は、滋賀県内における唯一の産業廃棄物管理型最終処分場であり、年6万7,000トンを受け入れ可能として、建設されたものであるが、産業廃棄物のリサイクルや減量化などにより、当初計画を下回る年間2万トン程度の受け入れとなっており、大変厳しい経営状況となっている。

このことから、平成20年10月末の開業以来、1年半以上が経過したところであるが、(財)滋賀県環境事業公社において、平成23年度に中期経営計画を策定し、クリーンセンター滋賀の安定的な経営を確立することとしており、施設の概要および産業廃棄物の処理状況について調査を行った。



#### (2) 旧アール・ディエンジニアリング最終処分場跡地(栗東市小野)

旧アール・ディエンジニアリング最終処分場については、抜本対策の着手までにたちまち放置できない生活環境保全上の支障またはそのおそれについて、焼却施設撤去工事や水処理施設修繕工事などの緊急対策が実施されている。

また、県は去る1月23日に、「環境省からの助言等を踏まえたRD事案に関する今後の県の対応について」という方針を周辺自治会に提示し、6月20日までにボーリングなどによる詳細な有害物調査等についての住民の合意を得たところであることから、旧アール・ディエンジニアリング最終処分場の現状について調査を行った。



#### (3) 農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

農業技術振興センターは、農業分野の試験研究、新技術の開発を部門横断的に推進するとともに、試験研究成果等の迅速な普及をはじめ、環境と調和した農業の確立と担い手の育成を総合的に進めることを目指している。環境こだわり農業を進める技術

開発をはじめ、地球温暖化に対応するための品種育成・栽培技術、野生獣による農作物被害防止、農産物の高品質化などの研究開発を行っていることから、施設の概要および運営状況について調査を行った。

委員からは、農家の収入を上げるためにＪＡとの連携など流通部門に積極的に取り組んでもらいたい、米の品種改良に取り組まれているが、従来、新品種の普及まで時間がかかっているので、今後、速やかに普及するよう努められたい、などの意見が出された。

